

SSKS 風の子便り

ひとりぼっちの障害者をなくそう



企画も工房も熱い会議を
繰り広げている（10/20）



目次

☆活動報告	2
☆工房ぷらす	3
☆メンバーのつぶやき（小野塚）	4
☆柳さんの料理コーナー	5
☆メンバーのつぶやき（田中）	5
☆メンバーのつぶやき（三木）	6
☆バリアフリーよもやま話（岡本連載） 第99回「どうして使ってくれない？」	6・7
☆運営委員会報告	8・9
☆懐かしの写真アルバム	10
☆和栗顕太郎さん 安らかに	11
☆寄付のお礼・所長のため息	12

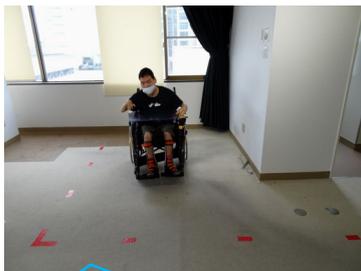
2020年

11月号



活動報告（9月16日から10月15日まで）

①9月19日、僕は職員さんと一緒に平成ビルの下見に行きました。入って見たらとても広く感じました。そこで自分は所長に頼まれたお手洗いの予定スペースを確認しました。小野塚さんは普通のトイレの確認をしました。



平成ビルの車いすトイレスペースを見ました。



2人でせまいトイレの中に入るようすです。

②9月29日、みなとパーク芝浦で開かれるアート展にメンバーの廣瀬さんと斎藤さんの絵を出品しに行きました。僕は斎藤さんにインタビューをしました。そこで話を聞いてみたら「花火夜の海」と言う作品がとてもいいと思いますって言ってました。



廣瀬さんは自分で作品を選んでいる様子です。

一方、廣瀬さんは自分で3点の作品を順番に決めていました。

③9月30日、企画会議をしました。

④10月号で皆さんが書いていた文章を順番に発表をしました。

僕は今年までは活動報告の担当なので頑張りたいと思います。

あと11月号の記事ぶんたんを話し合った結果、今年の記事分担を変えずにやる事になりました。

⑤10月9日金曜日に風の子会でインフルエンザの予防注射をメンバーさんと職員さんが順番に打ちました。

⑥10月13日火曜日、企画会議をしました。カレンダーについて話し合いを行いました。話し合った結果カレンダーは去年買ってくれた人を買ってもらうほうこうになりました。また、郵便準備、ダイレクトメールの文章を作成する担当を決めました。

メンバー 島田龍司



工房ぷらす☆ (9月16日～10月24日までの工房報告)

10月の主な仕事

1) 牛乳パックを利用した手漉きハガキの製作、9月16日～10月24日までで459枚完成。

2) クリスマス用品のビーズ製作を始めました！！

来月から注文がありそうなのでみんなで作成中です！他のビーズ製品は、ストラップ(花)1個、ストラップ(丸)1個を製作しました。



みんなで作ったマスクケース

マスクケース



3) 小林さんが持って来たマスクケースをもとに工房のメンバー用に試作品を製作しました。

メンバー紹介

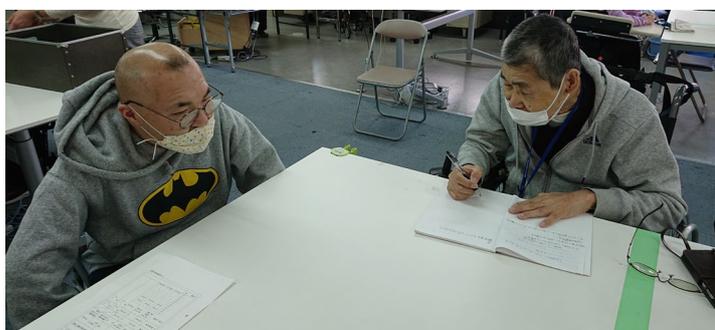
今月は朝生君の紹介です。

風の子会に入所したのは平成7年で現在42才になります。

風の子会での主な仕事は牛乳パックを細

かくちぎった紙を水とミキサーに入れハガキの元を作る仕事です。内職で楽しかったのは、コートバックやゴミ袋の製作です。

内職が大好きなので次の内職が待ち遠しいです。



真剣に？インタビューを受ける朝生さん(右)



8・9月合併号で掲載した「小野塚、今度は盲腸らしいよ？」ですが、文字が小さすぎて読みづらいとのご指摘がありました。なので、今月号から4回に分けて「小野塚、今度は盲腸らしいよ？」を掲載しますのでよろしくお願ひします（再掲載にあたり、多少加筆している部分があります）。



「小野塚、今度は盲腸らしいよ？ 第1回」

7月24日深夜、吐き気をもよおして起きる。トイレへ行き軽く吐いてベッドに戻る。普通は1度吐けば治まるのだが、その夜は吐き気がなおも続く。吐いては寝て吐いては寝てを繰り返して、7回吐いたところで空が明るくなり始めた。それで寝るのを諦めてソファにもたれかかる。吐き気は次第に治まってきたが、代わりに右下腹部を差し込むような痛みが襲ってきた。痛みは徐々に激しくなっていく、起きていられなくなって横になるのだが、それで痛みが和らぐ訳でもなく七転八倒しはじめる。その少し前に父が来たので経緯をざっと話し（いや、父はもっと早くきていたか？）、救急車を手配してもらおう。父が症状と障害の程度を救命士に説明している間に担架に乗せられて救急車に乗り込む。救急車が選んだ先は虎ノ門病院だった。

虎ノ門病院の救急外来に入り、診察台に横になる。痛み止めの点滴を手首に刺され、血液検査のための採血注射を打たれ、レントゲン検査とCT検査を受け、あとはひたすら診断結果を待つ。痛み止めがあまり効かず、必死に痛みを耐えながら待つのだが、2時間経っても3時間経っても結果は出ない。たまに襲う激しい痛みを耐えきれずぎゃあぎゃああと雄叫びをあげながら4時間が過ぎた頃によく医師がこう言った「盲腸の疑いがありますのでとりあえず今日は入院しましょう。明日再検査して確定したら手術となります」。入院？ 手術？・・・現実味のない言葉が頭の中をぐるぐると彷徨う中、僕の体は入院病棟へと運ばれていった。コロナ禍なので父もあまり付き添えず、医師の説明を聞き入院の手続きを済ませ、僕の顔を見ると帰って行った。16階の入院病棟の部屋に入ったとき既に日は暮れていた。「そういえば、今日一日何も食ってねえな・・・」点滴からぼとりぼとりと落ちる栄養剤を眺めながら、明日に向けてゆっくりと目を閉じた。

第2回につづく

小野塚 航



「敬事の料理コーナー。」

「魚ロールパン。」

- 1, 冷凍食品の魚フライを電子レンジで1分温める。
- 2, バターロールに切り込みを入れる。
- 3, 温めた魚フライと市販のポテトサラダをバターロールに入れて挟む。
- 4, 出来上がり。



美味しそうな魚ロールパン

風の子会メンバー柳川敬事。



メンバーのつぶやき

GOTO・皆さん利用した??

GOTOトラベルキャンペーンが、東京が解除になりましたが、皆さん旅行へ行きましたか？僕は、インフルエザにも新型コロナウイルスで感染したくないので、旅行へ行く気分にはなりません。もし気にしなければ、お笑いが好きなので「なんば・グラウンド花月」に行って心の底から大爆笑がしたいと思います。ですが、まだ感染症に気をつけないといげないので、旅行に行く気分にはなりません。コロナウイルスが早く収束をしてほしいと思います。



早く、行きたいなあ～

メンバー 田中 聡



新たな時代 ～コロナとともに～

今年は、新型コロナウイルスに振り回された一年になりそうです。上半期は、マスク・アルコール消毒液・医療従事者用のガウンなどの物資が足りなくなってるという報道が毎日のように聴かれました。マスク・アルコールの容器は、輸入に頼ってたから足りなくなっただけです。マスクは今では国内で増産しているので徐々に、供給されてきました。風の子会独自の行事や区民まつりも中止になりボランティアさんに会わない寂しい一年で終わりそうです。(振り返ってみるとあんな一年もあつたんだな～という思い出になるでしょう?)早ければ来年上半期には、輸入にはなりそうですが、ワクチンが摂取可能になりそうです。国産のは、未だ未だ先になりそうです。

メンバー 三木直人



2016年コロナ禍前の楽しかったみなと区民まつり



バリアフリー よもやま話

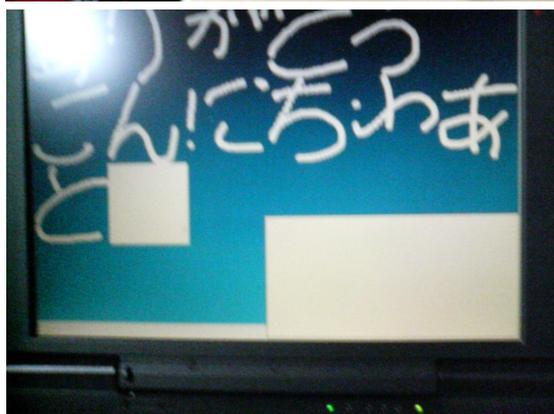
第99回 「どうして使ってくれない？」

風の子会ボランティア・運営委員 岡本 明

いきなり私ごとで恐縮ですが、失敗談を一つ。

私の友人で、筋ジストロフィーで鹿児島島の病院に長期入院中の E 子さんは、人工呼吸器使用で声が出ません。顔の表情も出ませんが、指先が少し動きます。その指でスイッチを操作してパソコンを駆使し、小説を書いたり、メールをしたりして、達人です。しかし、日常の会話ではパソコンは使わず、主に胸の上

でわずかに動く人差し指でひらがなを書くのです。これはとても読みづらいし、一文字一文字を記憶しておかなければならず、慣れた看護師さんも苦勞していました。私も見舞いに行ってもなかなか会話が難しく、困っていました。いろいろ考え、胸の上に小型の手書きパッドを置いて、そこに指で書いた筆跡をそのままパソコンに表示するのはどうかと思いつきました。E子さんも興味を持ってきて、協力してくれることになりました。



まず、実際に指の動きがどうなのか、どんなパッドなら使えそうかななどを調べるために、看護師さんにビデオを撮ってもらったり、何度か病院に行ったりして観察を数か月続けました。そして出来上がった試作品を持っていったところ、E子さんも看護師さんも「とても良い、これで楽に会話ができます。私たちのために苦勞してくれてありがとうございます。」と言ってくれて、私も意気揚々と鹿児島から帰ってきました。ところが、数か月後に行ってみると、実際にはまったく使っていなかったのです。「どうして？ どこが使いづらいの？」などいろいろ聞いていくと、最初はモゴモゴ言っていたのですが、そのうちやっと本音を話してくれました。「はじめは良いと思ったけど、会話にはやっぱりパソコンは使いたくないの。手書きなら読みにくいから、相手も一所懸命読んでくれるので、本当の気持ちが伝わる。でも私のために作ってくれてうれしかった」。

E子さんはこれを本当に欲しいとは思っていなかったのです。装置が良いと思ったことや私への感謝の気持ちは本物でした。でも彼女の本当の気持ちに機械ではうまく応えられなかったのです。この点を掴めなかったために、失敗したのです。

障害のある人のための支援機器の開発やサポートをするエンジニア（リハエンジニア）たちが常に直面している問題は、使う人の真のニーズをいかにとらえるか、ということです。一所懸命苦勞して開発した機器をなかなか使ってもらえない。「とても良い。ありがとうございます。」と言ってきているのに……。この原因の多くは「真のニーズ」を把握できていないことです。単に技術的に良いものを作るだけダメなのです。使う人の気持ちをしっかりと掴むには、その人の障害の状態、日常生活の習慣、性格、能力などを知ると同時に、その人との信頼関係がなければできません。これは大変難しいことですが、それをきちんとできる人が最も優れたリハエンジニアと言えるのです。



～ 運営委員会より ～

運営委員会とは、会長に選任された運営委員で構成され、会の運営に関することを話し合っ
て決める機関です。運営委員にはメンバーも職員もボランティアも含まれていて、月
に1度集まって様々なことを話し合っています。

2020年10月の運営委員会内容

• 移転問題

→平成ビルを見学してみたの感想を集約した（トイレが狭い、ゴミ出しの場所がわからない等）。

• コロナ対応状況

→メンバーが発熱などで休んだ場合に積極的にPCR検査を受けて早期通所再開できるような体制にしようという提案が出され、議論し了承された。※詳しい経緯は次ページに

• 職員応募状況

→パート生活支援員の応募に男女3名ほど来ている。近日中に実習予定。

• 冬休み日程

→例年通り12月29日から1月3日に決まった。

• キャブ、印刷機

→ドーモキャブと印刷機が老朽化してきているので買い替えたいが、財政的に苦しい状況なので踏み切れない。

これらについて話し合いました。

文責 運営委員・小野塚

令和2年10月14日運営委員会議題

「PCR検査の積極利用と有料PCR検査の費用支出」

当会では、風邪症状が消失してから2～3週間の通所自粛要請という予防方針（※）を徹底してきたが、PCR検査を積極的に活用して、予防対策と本人家族の負担軽減と事業の安定をすすめる。PCR検査は、可能な限り、公的な制度利用を図るが、それが困難な場合、有料のPCR検査受診をはかり、その検査費用は会で負担する。コロナ感染の疑いが生じたら会として早めにPCR検査を受けることを援助し、「陰性」という判定があれば、症状が消失したらすぐに通所再開をできるようにする。

理由

- 1 コロナの早期発見と早期対応のため。
- 2 インフルエンザが流行時期を控え、コロナ疑いで不安解消と診察拒否を避けるため。
- 3 自粛期間（最短2～3週間）を短縮するため

※ コロナ予防方針（通所自粛に関する部分）

令和2年2月5日 運営委員会決定

コロナ、インフルエンザに感染した場合は、症状の消失から
2週間は通所自粛

令和2年2月18日 理事長決定

自粛対象に風邪症状も加える

令和2年6月6日 理事長決定

ただし、PCR検査などで陰性と診断された場合など明らかにコロナ感染のおそれがないと分かった場合は、症状が治まったら自粛要請を解除できる。

令和2年9月12日 ●●先生（顧問医）より

家族が発症した場合には、本人に感染が発症するまでに1週間が見込まれる。（そうすると、家族が発症からは、本人への発症がなくても合計3週間は感染の恐れがあるという結論）



なつかしのアルバム



飲んで飲んで
楽しいな～

さて
私は誰でしょう？
(2005)



去年は台風、今年はコロナで2年続けて区民祭りが中止になってしまいました。来年こそは楽しめるといいですね。

（写真は2010年の区民祭りです）

担当・メンバー 小野塚



和栗頭太郎さん 安らかに

10月14日（水）夕方、和栗頭太郎さんは91歳で天寿を全うされました。葬儀は、親族のみで執り行われ、お骨は山形の親族ご一統のお墓に還られました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

和栗さんは、80過ぎのお母様と二人暮らしのとき、昭和54年に風の子会の前身の「サークルアラクサ」に入会し、本人曰



く「40年ぶり」に家の外に出ることが出来るようになりました。

同じ脳性麻痺の障害を受けている仲間に初めて出会い、結婚や大学など、それぞれの生き方の多様さと力強さに驚き、旅行や外に出ようなどの行事を通して体験と交友を広げ、電動タイプ

ライターで思いを綴るすべを知ってからは、たくさんの思いを文に紡ぎだし、ワープロ、パソコンも使いこなすようになり、風の子だよりに沢山の作品を発表してきました。65歳で老人ホーム白金の森に



入ってからも風の子に通って活動していました。ここ数年は、文筆の活力は衰え、風の子で居眠りしていることも多かったのですが、風の子に居ることがとても楽しいようでした。缶コーヒーとカツカレーが大好きでしたかね。

しかし、今年のコロナウィルス感染症の発生と流行のため、ホームが出入り禁止となり7か月間お休みしていました。

ホームから危篤のお知らせを聞いてからご逝去の前日までの6日間に、中には40年にわたり風の子で共に過ごした仲間が代わる代わる見舞いに伺いました。ベッドの和栗さんは、声は出ないけど、じっといつまでもみんなの顔を見つめてくれていたといいます。みんな何もできなかったけど、そんな形でも最期のお別れをすることが出来たととてもよかったですと思います。

和栗頭太郎さん、どうか、安らかにお眠りください。

風の子会



賛助会(寄付)・物品寄付のお礼

賛助会(寄付)ありがとうございます。(10月1日～10月20日)(順不同)
井出 みどり様



所長のため息

日に日に寒くなってきましたが、体調は崩されていないでしょうか。ここ最近、メンバーでも体調を崩される方が数名いました。風の子会では発熱をした方は、熱が治まってから2週間は自宅で療養してくれとご家族の方に伝えていきます。厳しいかもしれませんが、コロナ感染を防ぐために囑託医の意見を踏まえておこなっています。しかし、2週間休む(しかも熱が治まってから)というのは、とても長いです。そこで、休んでいるメンバーで希望する人にはPCR検査を受けてもらうようにしています。自力で行けないメンバーにはボランティア、看護師が付き添って行きます。

そこまでする必要があるの?という意見もあります。しかし風の子会に行きたい!というメンバーがいる以上、PCR検査を早く受けて安全を確保して、少しでも早く風の子会に復帰してほしい、という思いからやっています。幸い、まだコロナに感染したという人は出ていません。これからもこの状況は続くと思います。しかし私としては風の子に來たい!というメンバーが早く通ってくれることが何より大切なことです。私もメンバーと早く会いたい。なので、早くこの状況が改善され、みんなと笑顔で活動したいものです。

5月号で賛助会の募集を行いました。皆様からのたくさんのご寄付ありがとうございます。これまでに集まった賛助会ご寄付は以下の通りです。引き続き募集しています。よろしくお願ひします。

賛助会実績(10月20日現在) 87名 4,098,600円

ひとりぼっちの障害者をなくそう

特定非営利活動法人・風の子会 ~定価40円~

企画編集メンバー

太田 圭子 信高 正義
太田 稔 三木 直人
小野塚 航 柳川 敬事
島田 龍司 幸 高史
田中 聡

編集人:【高浜生活実習所】生活介護、就労継続支援B型
〒108-0022

東京都港区海岸3-3-18 芝浦日新ビル5階

TEL 03(6809)4001

FAX 03(6809)4002

ホームページ: <http://www.kazenokokai.or.jp/>

e-mail: kazenoko@kazenokokai.or.jp

発行人: 障害者団体定期刊行物協会

東京都世田谷区砧6-26-21